

あなたは、愛のともしびを燃やし続けていますか？



鏡の女たち

吉田喜重監督
全ての女性に贈る
エモーショナルロマン

岡田茉莉子

田中好子

一色紗英

山本未夾 / 北村有起哉

三篠美紀 / 犬塚弘

西岡徳馬

室田日出男

吉田喜重監督作品

製作 成澤章 / 綾部昌徳 / 高橋松男
企画 吉田喜重 / 高橋松男
監督 脚本 吉田喜重
プロデューサー 高田信 / 尾川匠
Philippe Jaquier / 霜村裕

製作統括 高橋雅宏
音楽 原田敬子
撮影 中堀正夫 C.O.
照明 佐野武治
美術 部谷京子
編集 吉田喜重 / 森下博昭
録音 横溝正俊
製作 アレック・ポレシヨ
現代映画社
ル・ビクタマーズ
グループキネ東京
特別協力 フランス国立映画センター
協力 テンコトレシヨ
後援 広島市 / フランス大使館
配給 クロウワー・ポレシヨ
宣伝 ライスタウンセンター
宣伝協力 1種レナント・コミュニケーション

三世代の女性たちが探しもとめる 記憶の旅 悲しみの時間を越えてたどりつく 魂の宿

吉田喜重監督作品

それは強すぎる陽差しに心怯える、年老いた母の想い。
それはひび割れた鏡に心惑う、記憶なき娘の嘆き。
それは障子に映る母の影に心揺れる、孫娘の哀しみ。

東京 24年前、生まれたばかりの赤ん坊を残して、失踪した娘を探しつづける年老いた女性、愛。そして娘によく似た女性、正子が現われるのだが、記憶を喪失していた。祖母を母と呼ぶ孫娘の夏来は、いま現われたその人を、母と認めるようとはしない。断ち切られた糸を、結びあわせようとする三人の女たち。やがて甦ってくる遠い想い出。その街の名は、広島― 奪い去られたアイデンティティを求め、心のきずなを取りもどそうとする、女たちの旅が始まる。

記憶の彼方に隠され、封じられた街、広島― 女たちはその地でなにを見出し、なにを語ろうとするのだろうか。過去の真実と向きあうことの悲しみ、それに耐えしのび、乗り越えてゆく。それは女が女であることの意味を問いただす、受難と再生の物語でもある。

1960年、松竹スーヴェルヴァーグの旗手として、脚光を浴びて以来、「秋津温泉」「エロス+虐殺」「戒厳令」などの作品により、日本の映画、そして世界の映画に、衝撃と波紋を与えてつづけてきた、吉田喜重監督。88年の「嵐が丘」以来、14年の長い沈黙のちに、完成してのが「鏡の女たち」です。

「わたしの内なる広島」を、いつの日にか映画で描くことを、この半世紀のあいだ、願いつづけてきたと語る吉田監督。なにかを暗示するかのように通り過ぎてゆく白い日傘、茶碗のふちに残る口紅のあと、障子に浮かぶ幼い少女の影、そして繰り返し映し出されるひび割れた鏡。こうした吉田監督固有のイメージが、女性たちの魂の謎にわけ入り、かたく封じられた時間の扉を開くのです。

主人公の愛には、監督の公私に渡るパートナーである岡田茉莉子が演じています。その静と動のせめぎあう演技に魅了されるでしょう。また「鏡の女たち」は吉田作品への32年ぶりの出演、そして1951年に映画女優としてデビュー以来、50周年を飾る、記念すべき映画です。

記憶喪失している正子を演じる田中好子は、「見せる」演技をする女優が多いなかで、「見られる」演技のできる、数少ない価値のある女優として、監督に期待され、それを見事に果たしています。

孫娘の夏来は、スケールの大きい映画女優としての可能性をもつ若い一色紗英が演じています。画面に大きくクローズアップされる表情、そのみずみずしい

眼の演技が、揺れうごく女性の心をあざやかに表現しています

こうした世代の異なる、三人の女優による演技は、新たな女性映画の誕生としても、強く印象つけられることでしょう。二度は死の街と化した広島、それがいま甦ることができたのは、女性たちの人の命をかぎりなく慈しむ、その心に支えられてのことです。こうした女性たちの、それぞれが内に秘める鏡。それを割ることは、誰にも許されません。

「鏡の女たち」は、フランス国立映画センターの特別協力、広島市ほかの後援を得て完成。2002年度の第55回カンヌ国際映画祭特別招待作品として上映され、5分以上にもわたるスタンディングオベーションを観客から送られました。

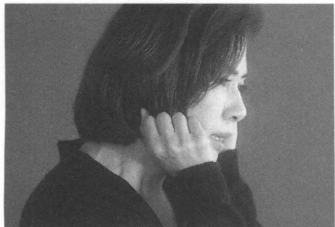


鏡の女たち

キャスト 岡田茉莉子 田中好子 一色紗英 山本未爽 北村有起哉

三條美紀 大塚弘 西岡徳馬 室田日出男

スタッフ 製作 成澤章 総務 昌徳 高橋松男 企画 吉田喜重 高橋松男 監督 脚本 吉田喜重 フォォォォォォ
スチール 尾川匠 Philippe Jacquet 撮影 高橋雅宏 音楽 原田敬子 撮影 中嶋正史 (SBC)
照明 佐野武治 美術 部谷京子 録音 横溝正俊 編集 吉田喜重 森下晴樹 製作担当 藤成久 製作 ケル
ソコボレシヨ 現代映画社 ルーベック・アズグル・サキネ・東京 特別協力 フランス国立映画センター 後援
広島市 フランス大使館 協力 ケルソコボレシヨ 宣伝 ラスタタシヨバニ
宣伝協力 レンランド・コミュニケーション 2002年 日本 35mm ビスタサイズ 129分 ドルビィSR



4/26(土)より感動のロードショー

4/26(土)~5/2(金)	12:20	2:50	5:20
5/3(土)~5/16(金)	12:20	2:50	5:20 7:50
5/17(土)~	レイトショー 8:30		

先行特別上映会

4/11(金)クレオ中央
18:30開演 (18:00開場)
吉田喜重監督&岡田茉莉子さん
舞台挨拶

「鏡の女たち」

スチール展同時開催!
4/11(金)~5/16(金)
クレオ中央
06-6770-7200
※詳しくは右記劇場までお問合せ下さい

大阪市淀川区十三本町1-7-27サンボードシティ6F

阪急・十三駅西口より徒歩3分

第七芸術劇場

06-6302-2073

http://www.nanagei.com/

特別共通鑑賞券:1,400円 劇場窓口およびチケットぴあ、ローソンチケット、阪急プレイガイド、阪神プレイガイドなどで総発売中 当日:一般1,700円 大学生1,400円 高・中・小・シニア1,000円